## 品種の特性

## 管内で生産される主な品種

うるち米(移植栽培)では主食用のななつぼし、ゆめぴりか、きらら397、ふっくりんこなどが栽培されています。

また、令和5(2023)年から、新たな品種として「そらきらり」の栽培が始まっています。

そらきらりはいもち病抵抗性に優れ、減農薬による環境負荷軽減、低コスト化、省力化ができる多収の新品種で、中食、外食向けに適するとされています。

「空育195号」の空(そら)と、お米の粒が小さくてキラキラ光って見えたことから「そらきらり」と名付けられました。

うるち米(直播栽培)では主に加工用の大地の星、主食用のえみまるが栽培されています。

もち米でははくちょうもち、風の子もちなどが栽培されており、管内では芦別市、北竜町、幌加内町 にもち米団地が見られます。

このほか酒米や、飼料用米のそらゆたかも栽培されています。

## 北海道米品種一覧

区分	品種名	採用年	早晩性	品種特性	備考
うるち米	きらら397	昭和63年 (1988)	早晩	粒感があり、しっかりとした食感の品種	業務用を中心に一定の需要あり
うるち米	ななつぼし	平成13年 (2001)	中早	食味のバランスに優れた北海道基幹品種	
うるち米	ふっくりんこ	平成15年 (2003)	晚中	耐冷性に優れた極良食味品種 道南・空知地域で限定作付	
うるち米	おぼろづき	平成17年 (2005)	中早	粘り、柔らかさに優れる低アミロース品種	
うるち米	ゆめぴりか	平成20年 (2008)	中早	アミロース含有率が適度に低い極良食味品 種	
うるち米	きたくりん	平成24年 (2012)	中中	強耐病性のため、農薬を節減した栽培が可能	父はふっくりんこ。粘りや柔らか <u>さなどの食感にも優れる。</u>
うるち米	そらゆき	平成25年 (2013)	中早	多収で耐冷性、耐病性を持ち、籾割れ発生 の少ない品種	業務用に特化したお米として開 発
うるち米	そらきらり	令和5年 (2023)	早晩	多収で、いもち病抵抗性に優れる。低コスト・ 省力化が可能な品種	業務用に特化したお米として開 発
うるち米 (直播)	大地の星	平成15年 (2003)	早中	耐冷性、耐病性に優れ、加工用(冷凍ピラフ等)に適した品種	
うるち米 (直播)	えみまる	平成30年 (2018)	早早	低温苗立性に優れ直播栽培に適する品種	主食用品種
酒米	吟風	平成12年 (2000)	中早	酒造好適米。心白の発現率が高く、酒母やも ろみにおける溶解性が良い。耐病性に優れ る	
酒米	彗星	平成18年 (2006)	中早	酒造好適米。耐冷性が強く、吟風の作付が 困難な地域でも作付けができる	
酒米	きたしずく	平成26年 (2014)	中早	酒造好適米。心白発現がよく、千粒重が重く て多収。障害型耐冷性が強い品種	
もち米	はくちょうもち	平成元年 (1989)	早晩	主力品種	全国的に知名度が高く、根強い 需要あり
もち米	風の子もち	平成7年 (1995)	中早	耐冷性、耐倒伏性、品質(白度)などに優れている品種	餅にしたときの粘り、コシ、きめ の細かさが特長
もち米	きたゆきもち	平成21年(2009)	早中	耐冷性が極めて高く、白度、食味ともに高く 評価される品種	白度が高く、おこわの官能評価 でつやと味に高評価
飼料米	そらゆたか	平成28年 (2016)	早晩	耐冷性、いもち病抵抗性、耐倒伏性に優れる。多収性「知事特認品種」	

資料:「北海道米2024」(お米パンフレット、ホクレン農業協同組合連合会)、北海道農政部調べ

※「知事特認品種」は多収性専用品種で主食用以外の用途に生産され、知事の申請に基づき地方農政局長等が認定した品種

<sup>※</sup>早晩性は出穂期による。